



中能登町立 中能登中学校

生徒を迎える、地域に開くガラス屋根アトリウム

中能登中学校は中能登町の3つの中学校、旧鹿島中学校、旧鳥屋中学校、旧鹿西中学校を統合して誕生しました。町唯一の中学校となることから、町民が誇れる町のシンボルとなるような学校が求められました。

校舎棟と体育館棟の間に大きなガラス屋根をかけ、地域に開かれた半屋外スペースとしました。前面道路からグラウンドまで見通せるアトリウムは生徒・地域住民を出迎えるだけでなく、放課後の部活動や文化祭体育祭などの利用などを通して、生き生きとした中学生の学校生活が町に漏れ出すような場所となることを期待しています。

ひろくてゆったりとした内部空間と半外部空間

北陸は日照時間が少なく、雪が積もる冬季は屋内の活動が多くなります。そのため、雨天や冬季期間は運動部の活動場所確保が困難です。

そのため、内部空間と半外部空間の充実させいきとした学生生活をおくれるよ

う配慮しました。具体的には、大きな中庭を囲むロの字型平面の校舎棟は光の差し込む明るい空間としています。アリーナ棟はメインアリーナ・サブアリーナのほかに、柔道場・卓球場など、多目的に利用できる中規模な空間を設けています。共同調理場に隣接した位置に全校生徒が集まるランチルームを設けており、共同調理場から直接カートを運べる動線となっています。先述のガラス屋根アトリウムやグラウンドと連携できる雨天練習場、バルコニー下の軒下空間など、充実した半外部空間を設けています。

地域開放に配慮した配置計画

グラウンドと体育館等は地域開放を行うため、地域開放を行いや明快な配置計画としました。400mトラックを含むグラウンドを南側に確保し、北側幹線道路に沿って、アリーナ棟、校舎棟、ランチルーム棟、共同調理場棟を平行配置しています。また、校舎等・アリーナ棟入り口に近い北東角にバスロータリーを設けています。

素直な内外装計画

中学生という成長段階にふさわしい落ち着いた空間となるよう、素材を活かした素直な空間づくりを心がけました。外壁はコンクリート打放で統一し重厚感・安心感のある外観とします。屋根は地域の集落に多い瓦勾配屋根が連なる形態とし、周囲の景観と調和するよう配慮しました。

内装もコンクリート打放、廊下の天井ルーバーや腰壁に県産木材を使い、木の香りが溢れる空間としています。

